阿蘇の草原維持にご協力を！

阿蘇草原再生

阿蘇草原再生協議会では、阿蘇の草原を次世代の子どもたちに引き継いでいくため、持続的な草原利用・維持管理に向けた新たな仕組みの一つとして、「阿蘇草原再生募金」を行っています。

これまで、累計９８００万円を超える募金をいただいています。皆さまからの募金は、繁殖あか牛導入支援や放棄地の野焼き再開などの活動に充てられています。

今後も、皆さまのご支援をよろしくお願いします。

● 2015 年 3 月末までの募金状況

期間		件数	募金額
第1期	2010 年 11 月～ 2013 年 3 月末	4,092 件	70,385,083 円
第2期	2013 年 4 月～ 2015 年 3 月末	397 件	22,191,094 円
合計		4,489 件	92,576,177 円

※ 2015 年 4 月～ 10 月は約 580 万円の募金が寄せられ、累計 9,800 万円を超えました。

●募金でこんな活動を支援しています

いただいた募金は次の３つの原則（①実質的に草原再生につながる②地元が元気になる③募金者にわかりやすい）に基づき、さまざまな用途に使われています。

▷繁殖あか牛導入活動▷野焼き再開活動▷野焼き支援ボランティア活動▷草原環境学習活動▷生物多様性保全活動

●引き続き募金にご協力をお願いします

ことし３月までの第２期募金を現在、受け付けています。各金融機関口座への送金のほか、Ｑｕｏカードやワオンカード、定期預金などでも募金できます。詳しくは阿蘇草原再生募金事務局までお問い合わせください。

▲オリジナルＱｕｏカード

募金に関するお問い合わせ　阿蘇草原再生募金事務局（（公財）阿蘇グリーンストック内）　☎３２－３５００

会員間の親睦を深めるための グラウンドゴルフ大会開催

食改だより

内牧支所横の多目的広場で１１月５日、阿蘇支部恒例のグラウンドゴルフ大会を開催しました。

この大会は、会員間の交流を深め、地域での食生活改善の活動がより積極的にできることを目的に行っている行事で、７１名の参加があり、和気あいあいで大声で笑う声がグランド内に響きわたっていました。

今回もおもてなしの昼食を準備しました。私たち役員は、地産地消に心がけた献立で、のっぺ汁に漬物、おにぎりをつくり、大変好評で、おかわりをする方が多くいらっしゃいました。「８０歳を過ぎても、プレーできるのは、食改の会員になって、食生活について勉強できたおかげ、また、来年も元気で参加したい」とうれしい言葉をいただきました。

役員一同、これからも、健康な地域づくりを広げなければと改めて身が引きしまる思いでした。

（阿蘇支部　会長　阿南眞佐子）

家族や身近な人との関係を見つめ直し、
人権や差別について話し合う機会を持ちましょう。

人権作文

勇気を出すこと

一の宮中学校1年　城戸あかり

私は、人権学習で『今、言わなければ』を学びました。いじめを受けている恵さんがいて、そのいじめを止めるために洋子さんが帰りの会で訴えるという内容でした。私がこの人権学習を通して学んだのは、いじめをなくすためには、「勇気を出すこと」が大切であるということでした。

私は中学校に入学して、ある経験をしました。私は委員会の仕事で、毎日の帰りの会で、その日の目標の反省を報告しなければなりません。クラスには他にも同じ委員会の人がいるのですが、

「仕事やれ。仕事やれ。」

と私ばっかりに仕事をさせられそうになりました。私は、

「あなたがやって。」

と断りました。それでもその男子は、

「めんどくさい。」

と言って、仕事を全然しませんでした。そのため、その日の帰りの会で目標の反省を言うことができず、その人は担任の先生から怒られてしまいました。私は、

「だから言ったのに。」と思いました。

次の日、昨日怒られたから、私はその人が仕事をちゃんとやるだろうと思っていました。でも、帰りの会になるとまた、

「おい、仕事やって。」

と、言われました。

するとその時、すぐそばにいた友達が、

「はあ？いつもあなたはやらないくせに。」

と、代わりに言ってくれました。私は、「ありがとう。助かった。」と思いました。でもその男子は、

「だってめんどくさいもん。」

と言い返しました。私の友達は、その男子にあきれて、

「もういいが。(あかりも)しなくていいよ。」

と私に言ってくれました。でもその男子は、それを聞いて、

「はあ？やらせろよ。」

と言いました。私はそのことに、「おかしい。」と怒りがわき上がってきました。でも、結局、その日も私が仕事をすることになりました。

このような経験があったからか、『今、言わなければ』の洋子さんの、悪い人にはっきり「間違っている」と言える強さがとても印象深く残りました。

今の私は、「おかしい」と思っても、何も言えません。どうしても「自分までまきぞえになるかもしれない。」という思いが先に立ってしまうのです。でも私の周りには、そんな事はかまわず、きっぱりと「おかしい」と言ってくれた、あの友達がいます。私もあんな、立派に行動した、人から感謝される人になりたいと思っています。

私はこのクラスには、まだまだ勇気が足りない人が多いんじゃないかなと思います。発表の声は小さいし、意見を求められたときに、いつも誰かが言うまではみんな黙ったままだからです。このクラスが勇気を持てるためには、「友達がどうしてそう言ったのか。」「文句を言われた時の気持ちはどうだったか。」と、相手の気持ちを考えることが大切だと思います。そうすれば、相手が嫌な思いをする言葉を言う人もいなくなり、困っている人を助けてあげられる人が多くなると思います。私も勇気がまだまだなので、ちょっとした挨拶などにも勇気を出す練習として頑張ってみようと思います。そして、このクラスを、楽しいクラスにしたいです。

先生からのコメント

おかしいことに気づき、正しいと思ったことを声に出して伝える。そして、自分自身やクラス全体も正しく、良い方向に進むように行動することは勇気と強い信念が必要だし、責任も伴ってきます。正しいと思ったことを言葉にできなかったり、ためらったりすることを自分自身やクラスの課題として捉えていることに、あかりさんの真っ直ぐな思いを感じました。「勇気と強い思いをもってクラスをより良くしていくために努力していきたい」との気持ちに、担任として嬉しく思います。クラスのみんなを信じ、自分にできることから積極的に行動して、楽しいクラスにしていきましょう。

人権作文　平成26年度　阿蘇市人権作文集「かけはし」より　※学年は平成26年度時点。